

『日本目録規則 2018 年版』の更新について

2022 年 9 月 20 日
日本図書館協会目録委員会

『日本目録規則 2018 年版』(NCR2018)の冊子体刊行(2018 年 12 月)および PDF 版公開(2019 年 1 月)から、3 年が経過しました。FRBR(書誌レコードの機能要件)モデルを基盤とする抜本的な新版のため普及には一定の時間を要すると予想していましたが、2021 年 1 月に国立国会図書館(NDL)が、2022 年 1 月に株式会社図書館流通センター(TRC)が適用を開始するなど、徐々に実運用の動きが進みつつあります。

それに伴い、適用を開始された、ないしは適用を検討中の機関から、適用に関わる問題点の指摘や改善要望等をお寄せいただく機会が出てきました。また、適用に向かう機関以外からの指摘・質問も、一定数寄せられています。さらには、刊行後における目録委員会内での諸活動(データ作成事例の作成・公開など)の中でも、一定の変更・更新を視野に入れた検討を行うべきとの認識にいたった箇所が出てきています。

そのうち誤植等については、3 度の冊子体増刷に合わせて、冊子体の修正、PDF 版の修正、正誤表の公表を行ってきました。直近の修正は 2022 年 1 月で、冊子体第 4 刷と現在の PDF 版の内容は同期がとれています。誤植等の域を超え、多少とも内容に関わる事項については、冊子体の「刷」レベルでの変更は問題があると考え、一切行っていません。

『日本目録規則 1987 年版』においては、当初の刊行後 5 年前後のスパンで、特定章を大きく変更する「改訂」を行ってきました。しかしながら、更新を低コストで行える PDF 版を持っている NCR2018 においては、より迅速に更新事項を公表していったほうが円滑な運用に資すると考えます。

そこで 2022 年度より、目録委員会で決定した更新事項を適宜反映していく体制をとってまいります。

- ・更新事項の反映は、PDF 版に対して行います。その際、(現在も誤植等を修正する際に行っているように)変更点および修正日時をファイル内で明確に示します。
- ・加えて、変更事項の累積一覧を作成・維持します。
- ・冊子体への反映は別途の検討となります(増刷においては対応しません)。冊子体と PDF 版は同期しなくなりますが、更新事項累積一覧により冊子体刊行時からの変更点を把握できます。

具体的な手順や実施頻度等は、今後検討していく予定です。